

体育科

における深い学びに到達した児童像

- ◇運動を行う楽しさを味わい、(普段の生活でも)積極的に運動を行うことができる。
- ◇運動が「できる」ことと、運動が成功するためのポイントが「わかる」ことをつなげることができる。
- ◇これまでの運動経験をもとに、新たに取り組む運動に必要な技能を考え、実践することができる。

児童像の実現のために効果的だった手だて

- ・場の工夫…児童が運動に楽しく取り組める、取り組みたくなる場の設定をする。
- ・単元で身につけさせたい技能が身に付くように、ねらいとなる技能の習得に類似した運動を繰り返し行わせる。
- ・児童の技能に合わせて運動を選択できるようにする。
- ・共通課題を設定したうえで、一人一人のめあてに向かって運動を行う。
- ・学習の課題設定…発展的課題を含んだ学習課題の設定(側転からロンダート)
- ・跳び箱を跳ぶ前に、一人ひとりがどこを意識して跳ぶかを言ってから跳ぶようにする。
- ・振り返りを行うことで「できる」ことと「わかる」ことをつなげ、言語化させる。
- ・活動を見合う。

実践の成果(○)と課題(▲)

- 共通課題を設定したうえで、さらに一人一人にあっためあてを設定することで個別最適な学びにつながった。
- 跳ぶ前に一人一人がどこを意識して跳ぶかを言ってから跳ぶようにしたことで、学びの自律化につながった。
- タブレットを活用したことで自分の動きを確認し、技能を高めることができた。
- 体育でその運動の楽しさを味わうことで、普段の生活(休み時間等)でも積極的にその運動を取り入れた。
- 豊富な運動量を確保した授業展開を行ったことで、子どもたちが楽しく活動することができた。
- ▲タブレットに集中してしまい、十分な練習時間を取ることができなかった児童がいたため、友達の技を見合う時間とタブレットで撮影する時間とを分けて授業づくりをする必要がある。
- ▲目標の細分化…目標を細かく設定することで、より個別最適な授業を行うことができた。
- ▲教師の言葉かけ…肯定的フィードバック、励ましの声掛けを十分に行うことが大切(授業の中で最低100回の声掛けが必要)。